

今回は、「高校生が語る関の歴史」(関市立図書館)の報告です。

◇ 関市制70年・合併15年記念イベントで、研究活動の成果を発表しました！

日程： 2020年12月19日(土)

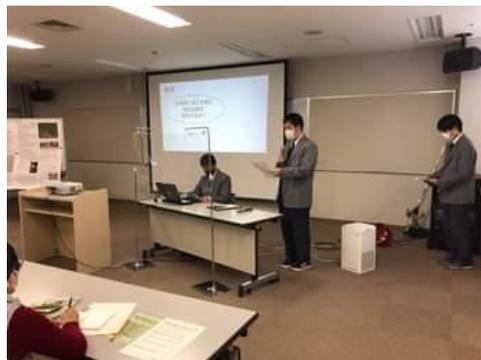
主催： 関市立図書館 発表者： 地域研究部 自然科学部

内容：

- ・「光秀と関市のつながりを追って」 地域研究部
(全国高等学校郷土研究発表大会 ポスター部門最優秀賞受賞)
- ・「応永年間、関鍛冶に何が起きたのか」 地域研究部
(全国高校生歴史フォーラム 優秀賞受賞)
- ・「たたら製鉄と電子レンジ製鉄」 自然科学部化学班
(岐阜県高文連自然科学部会発表・交流会 審査員特別賞受賞)

◇ 当日のようす

◆「麒麟がくる」放映にあわせ、「関市と光秀に何らかのつながりがないか調べてほしい」という依頼が関市広報課からありました。調べ始めたところ、江戸時代の記録に「光秀が洞戸で生まれ、山崎の合戦後も潜伏していた」との伝説があることがわかりました。いったい、誰が、何のために伝説をつくり残したのか。私たちは、光秀伝説の背景に何があったのか、探究を続け、市内富野地区にも伝説があったことや、明智氏が関市周辺を支配していたことを知り、伝説の背景について考察を加えました。



◆関鍛冶の成り立ちは応永年間(15世紀初頭)のことです。刀剣産地の中では後進地域であった関がなにゆえ日本最大の刀剣産地に発展したのか。私たちは、歴史学や考古学の研究成果を学ぶとともに、刀匠のもとに通い、砂鉄精錬や刀剣鍛錬のご指導を受け実験を重ねました。

私たちは、当時の関が、商工業者が比較的自由にふるまうことのできる町であったことに加え、関市近辺を幕府奉公衆の有力者が支配していたことが、関の繁栄をつなげたのではないかと考えました。



◆地域研究部の砂鉄精錬実験に参加した私たちは、木炭による加熱温度の低さを補うためにファイゴを使って風を送り、良質な鉄素材を作り上げた先人の知恵に驚きました。

実験後に、立命館大学工学部の山末英嗣教授から「身近な方法で高温を出し、鉄を溶かそうと思ったら、電子レンジを活用することもできる」と教えていただきました。悪戦苦闘の結果、確かに電子レンジでも砂鉄を溶かせることがわかりました。製鉄に当たっては、長良川で砂鉄を採取し、割り箸を燃やして木炭をつくりました。今後、さらに精度の高い製鉄ができるよう研究を続けていきます。



◇ 参観された方々の感想 ～アンケートより～

- ・大変よく研究されていて、感心し感動しました。これからのさらなる研究に期待します。
- ・高校生がいろんな研究をやっていることがよくわかりました。これから粘り強く研究してください。とてもよかったです。がんばってください。新聞でいろんな賞をとっていると知り、聞いてみたいと思いました。
- ・武芸川町史に明智光秀の墓があると載っています。ご存じかもしれませんが美山町に光秀のお墓もあります。武儀川に光秀の母が、光秀が1日でも天下をとれるようにと祈った石があるそうです。光秀、歴史について初めて知ることが多かったので、発表をきくことができほんとうによかったです。
- ・高校生が通常の学科の学修のほかに部活で一つのことを深く調べる活動をしている姿に感銘しました。
- ・関高はよく研究されていると感じました。
- ・面白かったです。
- ・まだ知らない関市のことが知れてよかったです。
- ・3つともすばらしい発表でした。今後も頑張ってください。
- ・高校生の発表であり新鮮さがあり非常によかったです。今後の活躍を期待します。
- ・今後も研究を継続してください。
- ・電子レンジ製鉄のこと、すごいと思いました。
- ・発表原稿が私たちの手元にあるとよかった。
- ・生徒の説明が早口でどんどん話が進んでいくのでちょっとついていけなかったけれど、高校生たちががんばって研究していったんだということはすごいと思いました。3つの発表はどれも興味深かったです。

参観者及び図書館スタッフの皆様方へ

近隣の皆様を中心に、遠くは兵庫県尼崎の方にも参観していただきました。今後は、発表要旨の配布や話し方の工夫など、ご指摘のあった部分を改善し、よりよい発表会になるよう心掛けてまいります。皆様方からの温かいお言葉を励みに今後も頑張ります。ありがとうございました。

またこのたびは、我々関高生の研究発表のために、事前準備や当日の進行など、様々なご支援をしてくださった図書館スタッフの皆様方に、心より感謝申し上げます。

生徒一同